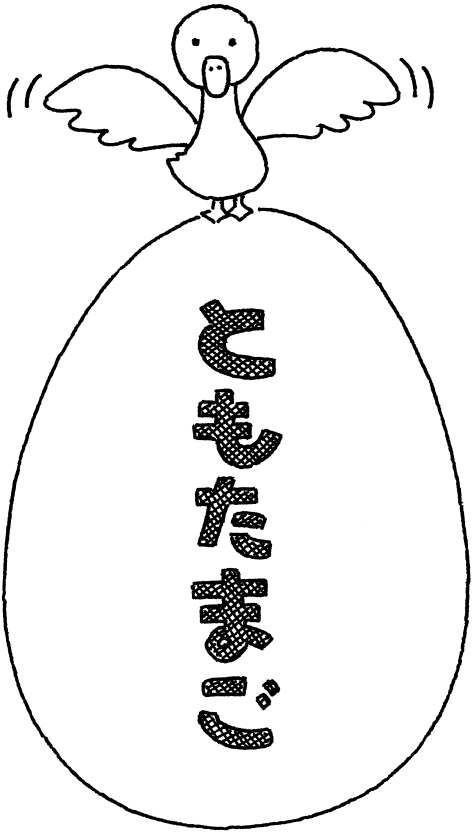

ともだちまご

うどんあこ

すずき大和・え

「まあくん、こっちこっち」

祐(ゆう)くんが、川のほとりの茂みの方へまあくんを手まねきしている。そして、草むらをおしわけてあごで示した。

「見ろよ」

祐くんが声をひそめてる。近くにだれかいるとも思えなかったけど、まあくんも声をひそめて言った。

「すっげぇ」

二人は、顔をみあわせて笑った。草のクッションの上に、たまごが二つ宝物のように並んでいた。

——にわとりのたまごくらいの大きさだろうか。いや、もうちょっと小さいような……

「なんのたまごかな。ぼく、あたためてたまごかえしてみたいな」

祐くんが、そっとたまごをなでた。

「あんがい、へびのたまごかもよ」

まあくんが、ヘラヘラ笑いながら言った。